



二月

柳

うたがひまゝのうた

月乃ふたれ也

しを過るうし

青柳の糸

鸞

春あゝい朱日はあゝぬ

あゝあゝあゝあゝあゝ





二月

柳

うたふはまのうた

月乃ふたれ也

しを過くうし

青柳の糸

寫

春あけの光日をもぬ

あけの光

あけの光

あけの光

二月

梅

あけの光

あけの光

雄

あけの光

あけの光

三月

藤

あけの光



あけふきつは 浮きうら

三月

藤

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

雲雀

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

四月

卯花

白妙乃衣

かきうら

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

夜の

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

卯花

時鳥

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

里に

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

あけふきつは 浮きうら

五月

盧橘



里に

あつよ

あつよ

あつよ

五月

盧橋

郭云たのやあつよの宿うまよ

うまよのよあつよのすらん

水鶏

花の戸あつよのあつよの曙り

あつよのあつよのあつよの

六月

常夏

あつよのあつよの

あつよのあつよの

あつよのあつよの

あつよのあつよの

鶴

あつよのあつよの

あつよのあつよの

あつよのあつよの

あつよのあつよの

七月

女郎花

あつよのあつよの

あつよのあつよの



くやまきり

三日月のうら

七月

女郎花

秋のうら

えあひなぬわら花

ちよわなうら

里合

鶴

長夜よ

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝあゝ

八月

康鳴車

あまのうら

あまのうら

初鷹

あまのうら

あまのうら

九月

鷹

あまのうら

あまのうら



下つたり、社のまを秋の戸よ  
まのほろもさす初居た降

九月

鳥

くわしくまのれをまやめ

露もさぬとさるの

あつたつれさ

鷄

人先あへいしく物さほりれ

めしやをさるるおま

うつたさ

十月

残菊

神毎月霜夜すまくのふんは

あよのかれこよがよぬおま

物さ自影しれさる田を聴い

何ゆえともそふりわらさ

十一月

枇杷

冬せい

いへぬ

よ葉のこ

えりた

らぬお

花さ

たさ

まふ



何事をもそふりつらむとて

十一月

枇杷

冬らしい

しゅうへぬ

ふ菜のこ

えんじ

さぬま

花ま

おとげ

まふ

千鳥

千鳥

いり

らむ

よこが

川

いり

ふい

むら

十二月

早梅

とうはじ

雪のころ

うのこ

ふゆ

水鳥

たうん

あま

うさ

あま





元禄甲戌真則日

雲竹書



春をさるる也

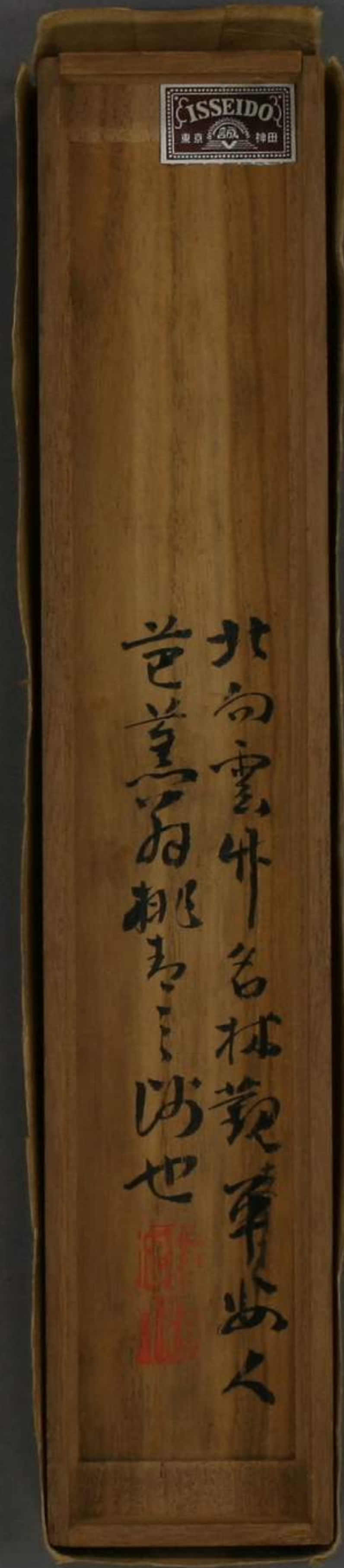
うさたのる年な

ふよぬの





特 別  
~4  
8124



北の雲外 名林 蕨 草 出 人  
芭蕉翁 御 筆 也 印



北向雲竹書堂極

乙酉夏

京都持物館鑒  
三溪堂柳





北向雲竹書卷

十二月





極札

書竹 子  
左少作ノ先也

了証書函

甲戌三





雲竹筆

書卷  
十二月歌合





雲竹歌之卷

北山玄竹歌

三月歌卷  
芭蕉翁の所書

特別  
~4  
8124